



おだ あかね
小田 朱子さん

国東高等学校 女子柔道部

小田 朱子さん(3年生)は、ロンドンオリンピックの松本薫選手が活躍する姿に憧れ、中学校から柔道を始めました。当初は、周りが経験者ばかりで、勝てない時期が続きましたが、2年生頃から、徐々に県大会に出場できるようになりました。そこで高校でも続けるか悩んでいた時、国東高校柔道部で父と一緒に汗を流した百瀬 薫孝さんが監督をしていることを知り入部しました。練習はきつく大変でしたが、2年生の新人戦で中学校時代からのライバルを倒し、個人戦57kg級で2位になり、九州大会に出場しました。今は引退をして、後輩達のサポートのため毎日練習に参加しています。

朱子さんは、「女子柔道の競技人口は少なく、部活で女子の同級生はずっといませんでした。後輩3人も、部員が少なく練習相手が不足しているので、私にできることは何でもしたいと思っています。そして後輩達には、市内の中学生が国東高校でも柔道をしたと思ってもらえるように、全国で活躍してほしいです」と話していました。



たか はし あきら
高橋 章さん

高橋フォトスタジオ(国東町小原)

高橋 章さんは、熊本市内の高校に進学し、写真クラブに入部したのがきっかけで、写真館によく通うようになり、そのまま就職しました。そして、30歳になった昭和55年に帰郷して、国東町鶴川に高橋フォトスタジオを開業しました。当時、東国東郡内の結婚式場や学校から仕事をたくさん受けることができたので、スタジオが手狭になり、平成9年に国東町小原に移転しました。しかし、約12年前頃から、市内の結婚式場が減り始め、婚礼写真の仕事が少なくなったことから、一緒にお店で働いていた娘が、8年前から別の仕事に就くことになりました。

章さんは、「婚礼や七五三などの晴れ姿をきれいに撮影できる『ポーズ』や『払い』を知っている営業写真館は、今後も国東市には必要だと思っています。そのためにも、自分の技術をますます磨いていきたいです。そして、写真が大好きな娘が、もう一度写真の仕事ができるように、環境を整えていきたいです」と話していました。



あん どう こう いち
安東 晃一さん

パスカル大分株式会社(安岐町下原)

安東 晃一さんは、熊本県内の工業高校卒業後、平成27年に金型をプレス機械に固定する油圧機器を製造しているパスカル大分株式会社に入社しました。入社後、材料から削り出して部品を作る旋盤部門に配属されました。しかし、高校時代に専攻していたのは電気関係だったので、何も分からず困惑していました。しかし、教育係の先輩から親切な指導があり、徐々に作業を覚え、その先輩を目標に仕事に打ち込むようになりました。そして、今年8月、機械加工の国家資格で、実務経験3年以上の者が対象の数値制御旋盤2級を受験しました。実技と筆記があり、1回で両方合格するのはとても困難ですが、見事一発合格しました。また、高校時代に部活でソフトボールをしていた経験を活かし、県のA級に所属する安岐ソフトボールクラブでショートを守り活躍しています。

晃一さんは、「熊本県から来て知り合いもおらず不安でしたが、職場でも、ソフトボールクラブでも皆さんがやさしく接してくれ、国東のことが大好きになりました。これからも、国東に根差して、仕事もソフトボールも頑張っていきたいです」と話していました。



同期入社の皆さん



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

国東の輝きひと

Vol.8



た もと ゆき のぶ
田本 幸信さん

(国東町浜)

田本 幸信さんは、東京都で会社に勤めていましたが、10年前に田舎暮らしがしたくて帰郷しました。そこから、両親の潜水漁とタコ壺漁やタチオウ漁を組み合わせた漁業を、一緒にするようになりました。しかし、4年前に父が亡くなって、母と2人でできる潜水漁に特化するようになりました。将来に不安を感じていたところ、漁師の仲間が、父の体調が悪くなってから辞めていた青年部に呼び戻してくれ、今年2月に復帰しました。そして、青年部内に加工部を起ち上げ、漁に出られない時には加工作業をして収入を得られるように取り組んでいます。また、8月から第2土曜の朝に道の駅にさきで漁師の朝市を開き、加工品の販売もしています。

幸信さんは、「私達青年部の漁師の大半は、両親と一緒に漁をしており、将来に同じ不安を持っています。そんな中、仲間が青年部に呼び戻してくれたことは、本当に嬉しかったです。この仲間と一緒に、漁を続けていけるように、いろんな事に挑戦していきたいです」と話していました。



漁師の朝市出店者の皆さん